

初めての赤ちゃんを抱いて母親のGaiを毛づくろいするGale。チンパンジーでは、多くのメスは繁殖を始める前に他の集団に移籍しますが、なかには母親の元にとどまって繁殖を始めるメスもいます。

特定非営利法人カリンズ森林プロジェクト

カリンズ森林によようこそ！

～ウガンダの森で、野生チンパンジーと人々の暮らしの共存を目指して～

アフリカのウガンダ共和国のカリンズ森林には、野生チンパンジーをはじめとする多様な動物が生活しています。

私たちは、森林の保全と地域住民の生活の向上を目指して活動しています。



環境教育センター



アカオザレ



ロエストモンキー



アビシニアコロブス



環境教育センターでの講演

カリンズ森林ってどんなところ？



アフリカ大陸の真ん中に位置するウガンダの西部にある熱帯林の森林保護区です。道一本へだてて村と接しているにもかかわらず、チンパンジーをはじめ、アカオザル、ブルーモンキー、ロエストモンキー、アビシニアコロブス、アヌビスヒヒの6種の昼行性霊長類が人を恐れず生活しています。

1990年代から研究者が主に霊長類を対象とした調査を続けています。2002年特定非営利活動法人カリンズ森林プロジェクトを設立して、森林の保全と地域住民の生活の共存を目指して活動しています。

カリンズのチンパンジー

カリンズ森林には、約100頭の研究対象の集団、約40頭のツーリズム対象の集団のほか、多くのチンパンジー集団が連続して分布しています。チンパンジーでは、メスが性成熟前に他の集団に移籍するため、理想的な環境といえます。カリンズ森林には樹冠の直径が20メートルを超えるようなイチジク属の大木が多く、アフリカ全体を見渡してもチンパンジーの生息密度はとて高くなっています。他の地域と同様集団間の関係は敵対的で、殺しを伴うような衝突も観察されます。



隣の集団の声を聞きつけて緊張で固まるオスたち。相手集団を威嚇する叫び声の応酬をしつつ、抱き合って恐怖心を抑えています。



カリンズでは、出産間隔が約5年とチンパンジーには短く、一頭のメスが2-3頭の子供を連れて歩くのがよくみられます。



オトナのオスの仲間入りをしようと、挨拶をするコドモのオス。

混ざるサルに混ざって思う「一緒にいる」ことの不思議



カリンズ森林では、アカオザルとブルーモンキーという2種のサルと一緒にいる姿をよく見かけます。このように、別の種同士が集まってできる群れを「混群」といいます。同じイチジクの木に並んで果実を食べたり、隣の枝で眠ったりしながら、とても平和に共存しています。コドモ同士は種を越えてじゃれ合い、一緒に遊ぶ姿もよく見られます。アカオザルとブルーモンキーが争うことはめったにありません。しかし、面白

いことに、別の種同士では仲が良い一方で、同じ種の隣の群れとはとても仲が悪いのです。隣の群れと出会うと、けたたましい声を上げ、躍起になって追い立てたりします。遠い相手とはうまくやれても、近い相手とは摩擦が生まれることがあります。このような関係は、人間社会にもどこか似たところがあるように思えます。カリンズ森林の混ざるサルたちもまた、そんな絶妙なバランスの中で毎日を過ごしているようです。



アカオザル



ブルーモンキー

他の動物たち



アフリカンシベット

カリンズ森林には、霊長類以外にもたくさんの哺乳類が生息しています。多くの種は人の気配を避けて暮らしています。自動撮影カメラを設置して、そのような動物たちの観察を試みました。



オオセンザンコウ



ブルーダイカー



ブッシュピッグ



ヒョウ

他にも…



グリーンバイパー



カムリクマタカ



カメレオン



ゴールデンキャット

保全活動

かまどプロジェクト



カリンス森林周辺の村では、これまで石を3つ並べただけの五徳で料理をしていて、多量の薪を消費していました。私たちは熱効率のいいかまどを導入するプロジェクトを進めており、3年間で7ヶ村 230軒の家に広めています。薪の必要量を抑えて森の保護に役立つほか、薪の採取と運搬にかかる女性と子どもの労働の軽減にも貢献しています。また、排煙の煙突があるため、煙で目が痛くならないと女性たちに好評です。最終的には各村の50パーセント以上の家に設置し、この地域の新しい文化として定着させることを目指しています。

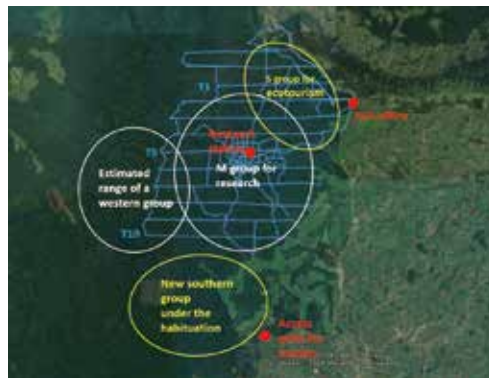
森林パトロール



この地域の人たちは霊長類を食べることはありませんが、ブッシュピッグやアンテロープの狩猟のために仕掛けた金属製の罠にチンパンジーがかかり、手足の指を失う怪我が多発しています。こういったことを防ぐため、2人のパトロールが森を歩き回って罠を回収しています。また、狩猟、密伐、炭焼きなどの違法行為を見つけると、地元の森林局に情報を提供して取り締まってもらっています。

エコツーリズム支援

研究対象として人付けしたM集団の北東にいるS集団を森林局のエコツーリズムに供するために人付けし、今では森林局の主要な収入源になっています。また現在は、南方にいる新たな集団も人付けを進めていて、人と森との共生を支援しています。



ご寄付のお願い

こうした私たちの活動の趣旨をご理解頂き、少しでもご援助頂ける方は、ご寄付をお願いします。

ゆうちょ銀行

名義：特定非営利活動法人カリンス森林プロジェクト

記号・番号：12120 75866651（銀行からの場合）二一八（ニイチハチ）店 口座番号：75866651

カリンス森林プロジェクト

〒484-8506 愛知県犬山市官林 京都大学犬山キャンパス

Email: kalinzu@gmail.com

<https://kalinzu.world.coocan.jp/index.html>